

久松シソノ氏の略歴及び功績

ヒサマツ

久 松 シソノ 氏

大正 13 年 1 月 15 日生

平成 21 年 1 月 8 日逝去

略

歴

昭和 16 年 3 月 長崎医科大学附属医院産婆看護婦養成所 卒業

昭和 40 年 3 月 長崎県立長崎西高等学校 卒業

昭和 16 年 3 月 長崎医科大学看護婦

昭和 19 年 8 月 〃 看護長

昭和 24 年 5 月 長崎大学に包括

昭和 27 年 1 月 長崎大学医学部附属病院看護婦長

昭和 44 年 4 月 〃 副総看護婦長

昭和 51 年 5 月 〃 副看護部長

昭和 52 年 12 月 〃 看護部長

昭和 60 年 3 月 同上退職

昭和 51 年 日本看護協会会長賞受賞

昭和 60 年 11 月 勲六等宝冠章受章

平成 14 年 11 月 長崎新聞文化章受章

平成 17 年 7 月 第 40 回フローレンス・ナイチンゲール記章受賞

平成 20 年 3 月 長崎大学名誉校友称号授与

功

績

久松シソノ氏は、長崎医科大学附属医院産婆看護婦養成所を卒業後、長崎医科大学附属医院看護婦に採用され、同医院看護長、長崎大学医学部附属病院看護婦長、同副看護部長を経て、昭和 52 年 12 月に看護部長に就任し、昭和 60 年 3 月定年により退職し、この間、44 年余に亘り診療業務の遂行に尽力されました。

退官後は、長崎大学看護学同窓会長として 17 年の長きに亘って同窓会の運営に当たり、長崎大学看護教育 100 年記念事業の開催、看護学研究奨励賞の発足など看護の支援事業を推進されました。また、昭和 20 年 8 月原子爆弾によって壊滅的状况となった長崎医科大学にあって、故永井 隆博士とともに被爆者の救援活動に当たった経験から、昭和 63 年には永井博士の遺志を継承した「長崎如己の会」を設立、副会長に就任し、平和学習の語り部として平和希求と戦争反対を訴え続けられました。この一貫した平和希求の活動は高い評価を得て、平成 14 年には「長崎新聞文化章」を受賞されました。

その後、世界被爆者医療と被爆事故対策支援などのため平成 15 年に附属病院に設置した「国際ヒバクシャ医療センター」の名誉センター長も務められました。さらに、戦中、戦後と生涯を通して真摯に取り組んできた看護師活動は学内にとどまらず、県内看護職員の研修指導、日本看護協会本部並びに支部における指導者的活動にも積極的に参画されてきました。これらの無私無欲な活動実績、前述の平和希求活動などが評価され、平成 17 年には「ナイチンゲール記章」が授与されました。